

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ではみなさんは、そういうふう^にに川だと言われたり、乳の流れたあとだと言われたりしていたこのぼんやりと白いものがほんとうは何かご承知ですか。」先生は、黒板に吊^{つる}した大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけ^(注1)ぶつた銀河帯のようなところを指しながら、みんなに問いをかけました。

カムパネルラが手をあげました。それから四、五人手をあげました。ジョバンニも手をあげようとして、急いでそのままやめました。たしかにあれがみんな星だと、いつか雑誌で読んだのですが、このごろはジョバンニはまるで毎日教室でもねむく、本を読むひまも読む本もないので、なんだかどんなこともよくわからないという気持ちがするのです。

ところが先生は早くもそれを見つけたのでした。

「ジョバンニさん。あなたはわかっているのでしょうか。」

ジョバンニは勢いよく立ちあがりましたが、立ってみるともうはつきりとそれを答えることができないのです。ザネリが前の席からふりかえって、ジョバンニを見てくすすとわらいました。ジョバンニはもうどぎまぎして真っ赤になってしまいました。先生がまた言いました。

「大きな望遠鏡で銀河をよつく調べると銀河は大体何でしょう。」

やっぱり星だとジョバンニは思いましたがこんどもすぐに答えることができませんでした。

先生はしばらく困ったようすでしたが、眼^めをカムパネルラの方へ向けて、「ではカムパネルラさん。」と名指しました。するとあんなに元気に手をあげたカムパネルラが、やはりもじもじ立ち上がったままやはり答えができませんでした。

先生は意外なようにしばらくじっとカムパネルラを見ていましたが、急いで「では。よし。」と言いながら、自分で星図を指しました。

「このぼんやりと白い銀河を大きないい望遠鏡で見ますと、もうたくさんの小さな星に見えるのです。ジョバンニさんそうでしょう。」

ジョバンニは真つ赤になってうなずきました。けれどもいつかジョバンニの眼のなかには涙がいつぱいになりました。そうだ僕は知っていたのだ、もちろん勿論カムパネルラも知っている、それはいつかカムパネルラのお父さんの博士のうちでカムパネルラといっしょに読んだ雑誌のなかにあったのだ。(注2)それどこでなくカムパネルラは、その雑誌を読むと、すぐお父さんの書齋からおお巨きな本をもってきて、ぎんがというところをひろげ、真つ黒なページいっぱい白い点々のある美しい写真を二人でいつまでも見たのでした。それをカムパネルラが忘れるはずもなかったのに、すぐに返事をしなかったのは、このごろぼくが、朝にも午後ごごにも仕事がつらく、学校に出てももうみんなともはきはき遊ばず、カムパネルラともあんまりものを言わないようになったので、カムパネルラがそれを知って気の毒がってわざと返事をしなかったのだ、そう考えるとたまらないほど、じぶんもカムパネルラもあわれなような気がするのでした。

(みやざわけんじ)宮沢賢治「銀河鉄道の夜」による。

(注1) けぶった¹煙った。ぼうつとかすんで見える。

(注2) それどこでなく²それどころではなく。

一 次のAからDまでを、文章の展開に沿って順番に並べ替えるとどのようになりますか。Aに続けてB、C、Dを適切に並べ替えて書きなさい。

- A 先生が黒板につるした星座の図の「ぼんやりと白いもの」を指して何かと尋ねた。
- B 先生が星図を指しながら自分で答えを述べた。
- C 先生がジョバンニを指名したが、ジョバンニは答えられなかった。
- D 先生がカムパネルラを指名したが、カムパネルラは答えられなかった。

二 — 線部「そうだ僕は知っていたのだ、勿論カムパネルラも知っている」とありますが、「僕」と「カムパネルラ」が知っているのはどのようなことですか。次の1から4までのうち、二人が知っていることの説明として最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 ジョバンニが真っ赤な顔になってうなずき、今にも泣き出さんばかりになっているということ。
- 2 ザネリがジョバンニを振り返って笑ったり、先生が困った様子になったりしているということ。
- 3 黒板につるした大きな黒い星座の図の「ぼんやりと白いもの」が、みんな星であるということ。
- 4 このごろのジョバンニは、毎日教室でも眠く、本を読むひまも読む本もないということ。

三 カムパネルラは、先生の質問に答えませんでした。その理由についてジヨバンニは、次のように考えました。□ に当てはまる言葉を本文中から六字で探し、抜き出しなさい。

カムパネルラが先生の質問に答えなかったのは、僕のことを

いるからだ。